

製品力

有限会社 敬天水産

Topics

食べきりサイズで県知事賞

「2008かごしまの新特産品コンクール」で鹿児島県知事賞(食品部門)に輝いた「敬天のかんぱち」程よく脂の乗ったカンパチを刺身・炙り・薫製・薫製炙りに加工し、4種類の味くらべが楽しめるセットだ。CAS凍結という細胞を傷つけない特殊な方法で急速凍結し真空パック。獲れたての味を食卓に届けてくれる。抜群の鮮度と味わいもさることながら、一つが約70gとコンパクトサイズな点が大きく評価された。「鹿児島県漁業振興大会第42回水産物品評会」では農林水産大臣賞を、また、「第1回鹿児島県新加工食品コンクール」では大賞を受賞している。「1年ほど前に商品化してから、県特産品協会が主催する全国の物産展に出品してきました。」

そこで直に聞いた消費者の声を参考になっています」と常務取締役の濱田三喜夫さん。核家族や一人暮らし



が増えた現在、求められているのは、「食べきりサイズ」「いいものをちよつと、手軽に」というニーズを満たす商品だ。敬天水産ではカンパチのフィレ(半身)、ロイン(半身の1/2)、ポーション(半身の1/4)、ブロック(約70g×100g)とバラエティ豊かに品揃えしている。「今回は使い勝手の良さを大きく評価して頂きました。45年間家族力を合わせて養殖業を頑張ってきて、本当に良かったと思っています。鹿児島はカンパチの養殖日本一!カンパチを元気に育てるエサと環境にこだわり、トレーサビリティシステムで高品質を追求した自慢のカンパチを新たなかたちで、誰でもいつでも手軽に楽しんでもらえたら、これ以上の喜びはありません。」

会社概要

住所/鹿児島市桜島赤生原町455
電話/099-245-2772(桜島加工場) 設立/1996年
代表者/濱田幸成 製品/生のカンパチ・ブリ、CAS凍結のカンパチ・ブリ、贈答用の「敬天のかんぱち」「潮」「岬」など各種

匠力

八木酒造合名会社 猿ヶ城蒸留所

Topics

30年ぶりに酒蔵を復興

(仕込み風景を表紙の写真で紹介しています。)

蔵の中に入ると、麴の甘い香りが鼻をくすぐる。猿ヶ城蒸留所は2004年に開業。上品な味わいと香りの焼酎「八千代伝」を生み出している。杜氏を務める吉行(よけ)正己さんのお話を聞いた。吉行さんは杜氏を輩出してきた笠沙・黒瀬の出身。蔵子の修業は2年間のみ。3年目にはもう杜氏として独立した。「自分で責任を負ってやらないと、本当のことは分からない、身に付かないんだ。若いころは焼酎のことが心配で眠れず、蔵で夜を徹したこともあったという。「麴菌は正直。手を掛けたらちゃんと応えてくれる。仕事は、品物が証明してくれます。」「後ろにも目が付いている」と言われるほどの蔵の様子が分かる吉行さん。努力は形となって実

を結び、やがてあちこちの蔵から声が掛かるようになった。手掛けた蔵は宮崎県・熊本県から奄美大島など県



米麴 切り返し作業

8月焼酎仕込み始めのお祝い



会社概要

住所/垂水市新御堂鍋ヶ久保1332-5
電話/0994-32-8282 設立/1928年
代表者/八木栄寿 製品/芋焼酎…八千代伝(白・黒)、千代吉、熟柿、黄色い椿 麦焼酎…千が飛び

内各地に及び、それぞれ銘酒として全国に名を知られるまでになる。一方、仕込みシーズンのみのサポートではなく常勤だったため、単身赴任生活は22年間にも及んだ。30年ぶりに再興した八木酒造の新蔵を始めて訪れたときは「こんな山の中に」と驚いたが、緑に囲まれた環境と、焼酎造りの基本となる水は素晴らしいと胸を張る。今、吉行さんは、杜氏人生の集大成となる焼酎造りに励む。「どれだけやっても、仕事の出来に上限はない。だからいつも、もっといいものを」と目指している。大変だけれど、そこがおもしろいね。」

農事組合法人 鶴田竹活性炭製造組合

竹林整備に一役・小売販路が今後のカギ

竹林面積日本一を誇る鹿児島県。北部の水と温泉に恵まれた鶴田の地に「農事組合法人 鶴田竹活性炭製造組合」はある。タケノコ生産者や竹山を持つ人たちにとって、竹林を整備・伐採することは大事な仕事。その伐採した竹を買い取り、独自に製品化、販売を行っている。昔ながらの土窯での焼きは温度管理が難しい。5日間ほどは300℃の低温でじわじわと焼き、最終日に700〜800℃の高温で焼き締める。こうして手間ひまをかけるとカラッと硬く、ひび割れないきれいな竹炭に焼き上がる。

竹炭の持つさまざまなパワーが注目を集めているが、土壌改良炭にする「おいしい米がとれた」「収穫量が増えた」と評判。植物の根付きが良く、公共工事の法面工事に使われることも多い。また有害物質を除去し、空気をきれいにする特質は、家屋調湿炭・断熱材として建築現場において力を発揮する。近年では、こういった大きな需要は伸び悩んでいるが、「健

康やエコに関心の高い個人のニーズが高まっている。インターネットなどでもっと発信していきたい」と代表理事の平島祐一郎さんは話す。虫除けや入浴剤として使える竹酢液(竹を焼いた煙を冷やして作った液体)、おいしいご飯やミネラルウォーターが手軽に作れる竹炭は、健康や環境を考える人たちの間で根強い人気がある。平島さんは今、小売販路の拡大を思案中だ。



会社概要

住所/薩摩郡さつま町柏原4970-1
電話/0996-59-8940 設立/1992年 代表者/平島祐一郎
製品/竹炭、土壌改良炭、家屋調湿炭、竹酢液、竹活性炭脱臭炭、竹炭健康枕、竹炭ごはん、お風呂くんなど

地域力

消費者の声 ● USER@VOICE

鹿児島市内のお店で
お買い物中のお客様へ聞きました

●仕事の都合で鹿児島に住んでいる弟が、送ってくれるお漬物が好き。大根の kori コリコリした食感と、麦味噌の味がおいしいんです。地元の方がおいしいというものを買いたいので、旅先ではスーパーのぞくようにしています。
(熊本市・主婦)

●「日常使いできるものがないから」と、旅行前に母からリクエストがあったのが屋久杉の箸。かさ張らないので、まとめて購入しました。あげる方ももらう方も、値段が手ごろな方が気軽にうれしいです。
(熊本市・会社員)

●女の子の孫にガラスと天然石でできた上品なキーホルダーを購入しました。小学生には少し高価かな...とも思いましたが、大事に長く使えるものがない。思い出に残るものであれば、値段は気になりません。
(唐津市・自営業)

●ステキな陶芸作品に出会うと、窯元まで訪ねてみることもあります。今日はお気に入りの作家のコーヒーカップセットを5つ購入。優しい自然のモチーフが大好きです。
(鹿児島市・主婦)

●観光パンフレットにあった伝統工芸品のペンダントを探しにきました。繊細な輝きに引かれたんだけど、実際に見ると厚みがあってゴツイ感じ。身に付けたときどうかな...。アクセサリーはもうちょっと華奢な感じがいい。
(東京都・OL)

会員の声 ● MEMBER@VOICE

前号掲載内容について

●東武百貨店の内田氏の具体例を挙げた説明は理解しやすく、売れるモノづくりのヒントがいろいろ得られた。
(市職員)

●表紙に泥染めの様子を掲載していただき、ありがとうございます。大島紬業界は低迷していますが、元気に頑張っています。
(大島紬製造業)

菓子工房フラノデリス
藤田オーナーシエフの講演会に参加して

●売れるモノ、作りやすいモノでなく、美味しいモノをつくる視点が参考になりました。
(農産加工品製造業)

●素材をこねくり回さない、素材のシンプルさをいかに表現していくかを考えなければならぬという点。店売り、物産展、通信販売をどうやって有機的につないでいくかという点など、勉強になりました。
(菓子製造業)

天文館サテライト店に出展して

●「天文館には大島紬製品を幅広く品揃えし展示販売しているところが無いので、常設でお店をやってほしい。」「作り手と直接話ができていろいろなことを教えてもらい、楽しかった。」などのご意見がお客様からあった。職人もできるだけ消費者と直接対話し、商品づくりに活かしていく必要性を痛感した。
(大島紬製造業)